

令和4(2022)年度
東京大学国際卓越大学院教育プログラム
「高齢社会総合研究国際卓越大学院 (WINGS-GLAFS)」
募集要項

1. プログラムの趣旨

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齢社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齢者を研究対象とする方に限らず、高齢社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、幅広く募集します。

2. 募集の対象 (募集人数：10名)

- ・修士1年：2022年4月入学者、2022年10月入学者
- ・(4年制・3年制博士課程の場合※) 博士1年：2022年4月入学者、2022年10月入学者
- ・ただし、下記に示すプログラム参画専攻に在学し、かつ博士課程進学を決意している方

【工学系研究科】全専攻

【人文社会系研究科】社会文化研究専攻

【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻

【法学政治学研究科】総合法政専攻

【総合文化研究科】広域科学専攻

【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻

【医学系研究科】国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻

【新領域創成科学研究科】人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、国際協力学専攻

【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻

【学際情報学府】学際情報学専攻

※ 先端学際工学専攻、獣医学専攻、社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻は博士課程のみ。

3. 募集から採用までの手続き

8月3日（水）16:00-17:00	募集説明会（@Zoom 下記HP から申込）
9月12日（月）-9月26日（月）17:00	申請書類受付期間
9月28日（水）9:00-12:00, 13:00-17:00	面接（候補日）
9月29日（木）9:00-12:00, 13:00-17:00	面接（候補日）
9月30日（金）9:00-12:00	面接（予備）
10月1日（土）11:00	合格発表
10月1日（土）15:00-16:00	ガイダンス

※面接は、応募書類で希望を取り、その回答状況を踏まえ、追って面接日時が指定されます。

※募集説明会のZoomの記録は、HPで随時見られるようにする予定です（GLAFS ホームページ: <http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>）。

4. 申請の手続き

（1）申請書類及び提出方法

・申請書（様式1-1、2、3／本要項のP7, 8, 9）については申請者が記入し、PDFの1つのファイル（ファイル名は「申請者氏名・申請書」とする）に変換し、メール件名に「GLAFS 応募」と記入の上、【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】まで、申請者から直接メール添付にて提出してください。

・教員の意見書（様式2／本要項のP10）については申請者の指導教員が記入し、PDFの1つのファイル（ファイル名は「申請者氏名・意見書」とする）に変換し、メール件名に「GLAFS 応募」と記入の上、【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】まで、指導教員から直接メール添付にて提出してください。

・応募締め切り 9月26日（月）17:00 （必着）

・問い合わせ先 東京大学高齢社会総合研究機構 GLAFS 担当 【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】

（2）選抜方法

選抜は、申請書類、面接を総合的に判断します。

（3）選抜結果の通知

令和4（2022）年10月1日（土）11:00より申請者全員に対し、メールで通知します。

5. プログラムの概要

(1) カリキュラム

<必修・座学> 高齢社会総合研究学通論Ⅰ・Ⅱ (1単位×2科目・2単位)

- ・高齢社会の基礎を「心と体の健康」、「社会環境」の2側面から効率的に理解し「俯瞰力」を養います。

<必修・演習> 高齢社会総合研究学演習 (1単位×1科目・1単位以上)

- ・産官民の現場や研究フィールドで課題解決に結びつける「現場解決力」を養います。

<選択必修> 高齢社会横断科目群 (4単位以上)

- ・超高齢社会の視点で、自らの専門領域あるいは他の領域を、各専攻から提供される幅広い科目から選択して学び、「領域連携力」を養います。

※2022年度開講科目はGLAFS ホームページ <http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>を参照ください。

<全体発表会> (学修進捗発表会 + 博士論文進捗発表会)

実習履修者には年に2回の全体研究発表会を設け、履修生全員で学修の進捗状況を発表します。加えて、博士課程の学生は博士論文の進捗状況の発表を行い、異分野の研究手法等を学び合う場を提供します。

(2) プログラム修了要件

本プログラムでは、修士課程1年次終了時点のQualifying Examination 1 (QE1)、修士課程2年次終了時点のQualifying Examination 2 (QE2)、並びに博士課程修了時のFinal Examination (FE) の合計3回の審査を行います。

■修士課程1年次修了時資格審査 (QE1:Qualifying Examination 1)

- ・「単位要件」等によって審査します。
- ・**単位要件**：通論（必修）1単位以上の取得。

■修士課程2年次修了時資格審査 (QE2:Qualifying Examination 2)

- ・「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって審査します。
- ・**単位要件**：通論（必修）2単位の取得と、高齢社会横断科目群（選択必須）2単位以上の取得。
- ・**学振要件**：日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC1）に申請。
- ・**博士課程進学の確認**：面接により博士後期課程進学予定を確認。

■博士課程修了時 修了審査 (FE:Final Examination)

FEでは、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」、「博論要件」によって審査します。この審査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定を付記。

・**単位要件**：通論（必修）2 単位と、演習（必修）1 単位以上、高齢社会横断科目群（選択必須）4 単位以上、合計7 単位以上取得

・**発表要件**：博士課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数の博論研究進捗発表

・**学振要件**：日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC2）に申請

・**博論要件**：提出した博士論文の発表を通じて、高齢社会の基礎の理解を踏まえているかを考査

6. 経済的支援（卓越 RA）

経済的支援は、所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越 RA として委嘱します。修士課程2年次、および、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額 18 万円を上限に支給します。

支給にあたっては、毎月「卓越リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書」を所属研究室の指導教員に報告の上、指導教員の印が押された報告書をプログラム・コーディネーター宛に指定した期日までに提出することとなっています。手続きの詳細は、本プログラム卓越 RA の募集要項をご確認ください。

卓越 RA の受給に関しては、以下の点を十分注意してください。

1. 卓越 RA は対価型で、いわゆる給付型の奨励金とは異なります。
2. 卓越 RA での経済的支援の支給を希望する履修生は、日本学術振興会特別研究員（DC1・DC2）に応募することが条件となります。
3. 他のフェローシップや奨学金、アルバイトとの重複については、アルバイトの内容、奨学金支給元の規則により重複受給が認められない場合があるので、詳細は卓越 RA の募集要項で確認してください。
4. 卓越 RA は、税法上、給与所得として課税されるため、毎月の所得税を源泉徴収した上で支給されます。そのため、年末調整や確定申告を行う必要があります。
5. 1 月から 12 月までの年収が一定の金額を超える場合、所得税法上の扶養控除を受けることができないことや、保護者や配偶者等の健康保険の被扶養者から外れることがあるので、保護者や配偶者等と予め十分に相談しておいてください。なお、当該年収に応じて、次年度に住民税が課税される場合もあります。
6. 本人の履修状況を含む総合評価により、年度の途中においても支給額を減額することがあります。
7. 上記記載の限度額は今年度の規定であり、来年度以降は本プログラムの予算状況により変更する可能性があります。

7. 2022 年度 秋学期のスケジュール

2022 年

10 月 1 日（土） 15:00-16:00 冬学期 ガイダンス・実習説明会

2023 年

2 月下旬 翌年度 経済的支援（卓越 RA）申請受付

3 月 4 日（土） 冬学期 全体発表会（学修進捗発表・博論研究進捗発表）＋QE

3 月 23 日（木） 修了式 & OBOG 交流会

※この他に、必要に応じて対応してもらうべき行事が追加される場合があります。

8. 注意事項

- (1) 受付期間内に必要書類が完備しない申請は、受理しません。
- (2) 申請手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めません。
- (3) 事情により、申請手続等について変更することがあります。変更があった場合は、改めて通知します。
- (4) 申請に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①履修者選抜（申請処理、選抜実施）、②採用者発表、③採用手続業務を行うために利用します。また、同個人情報は、採用者に関してのみ①学務関係（学籍、修学等）、②学生支援関係（就職支援、授業料免除申請等）に関する業務を行うために利用します。
- (5) 申請書における記載内容について虚偽の記載をした者は、採用後においても遡ってコース生であることを取り消すことがあります。
- (6) 履修登録・修正及び授業料免除の手続きは、所属専攻の手続きに則って各自行ってください。学期末に遡って履修登録を修正することが難しい学科があるため、学期初めの修正期間に十分確認してください。当プログラムでは履修登録・修正を行うことができないため注意ください。
- (7) 本プログラムが文科省や大学等から調査等を依頼された場合の必要情報提供の協力をおねがいすることがありますが、当該調査への協力の状況によって、経済的支援の給付額の減額等の措置を行う場合があります。

様式1-1 「高齢社会総合研究国際卓越大学院 (WINGS-GLAFS)」 申請者情報等

このページは申請者が作成し、PDFに変換の後、申請者本人から直接【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】へメール添付にてご提出ください。

氏 名 (フリガナ)		男 女
国 籍		
生 年 月 日		

2022年10月時点 の所属専攻名	大学院 研究科 専攻 修士・博士課程 <u>1</u> 年 (入学年月: 年 月) (※修士、博士、該当する方を残す)			
学 籍 番 号				
2022年10月時点の 指導教員	専攻名		氏 名	
	E-mail			
研 究 課 題				
卓越RA受給	希望する・希望しない・資格がない (※該当する方を残す)			
他の国際卓越大学院 WINGSにも申請している 場合は、申請先を記入				
現 住 所	〒 電話: E-mail:			
学 歴 (留学も含む)	年 月 大学 学部 学科 卒			
	年 月 東京大学大学院 研究科 専攻 入学			
社会人経験	有・無 (※該当する方を残す) ※社会人: 現に職に就いている者、入学のために退職した者、企業等を退職した者若しくは主婦を指す			
職 歴 (期間、所属、職名、主な職務を記 載/インターンシップを含む)				
面接希望日時 右欄の回答を踏まえ、追って面 接日時が指定されます。	9月28日(水) 9:00-17:00 【可・不可・要調整】 9月29日(木) 9:00-17:00 【可・不可・要調整】 ※【可・不可・要調整】の中から一つを選んでほかを消してください ※いずれも都合がつかない場合は、予備時間帯の9月30日(金) 9:00-12:00 となります。			

※本様式は1ページ以内に収まるようにしてください。

様式1-2 これまでの研究活動と今後の研究計画

このページは申請者が作成し、PDFに変換の後、申請者本人から直接【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】へメール添付にてご提出ください。

これまでに取り組んできた研究活動の内容とその成果（論文発表、社会貢献、受賞歴等）と、今後の研究計画（研究目的、研究方法、研究内容等）について、以下の欄内に記述してください。

<これまでの研究活動の内容とその成果>

<今後の研究計画>

※本様式は1ページ以内に収まるようにしてください。

様式1-3 本プログラムに参加する動機・期待

このページは申請者が作成し、PDFに変換の後、申請者本人から直接【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】へメール添付にてご提出ください。

本プログラムを志望する理由と、ご自身のこれまでの研究や今後の研究が高齢社会問題とどのように関わる可能性があるのかについて、以下の欄内に記述してください。

<本プログラムを志望する理由>

<ご自身の研究と高齢社会問題の関わり>

※本様式は1ページ以内に収まるようにしてください。

様式 2

東京大学国際卓越大学院教育プログラム（WINGS-GLAFS）申請者に関する意見書

このページは申請者の指導教員が作成し、PDF に変換の後、指導教員本人から直接【info@glafs.u-tokyo.ac.jp】へメール添付にてご提出ください。

申請者氏名	
申請者に対する評価	
総合評価 申請者の研究能力を総合的に評価し、該当する項目に○印をつけるとともに、推薦の順位を記してください。	(1) これまで指導した学生の中で a. 上位 10 % 程度 b. 上位 25 % 程度 c. 上位 50 % 程度 d. 上位 50 % 以下 (2) 推薦する学生 ____ 名中 ____ 番目

☐（チェック）申請者が博士課程に進学する意思を強くもっていることを、確認しております。

☐（チェック）卓越 RA による経済的支援を本人が希望する場合、卓越 RA の研究指導を行うことを了承します。

評価者の所属機関：東京大学 _____ 研究科・研究所 _____ 専攻 _____

職： _____ 氏名： _____ メールアドレス： _____

※本様式は 1 ページ以内に収まるようにしてください。